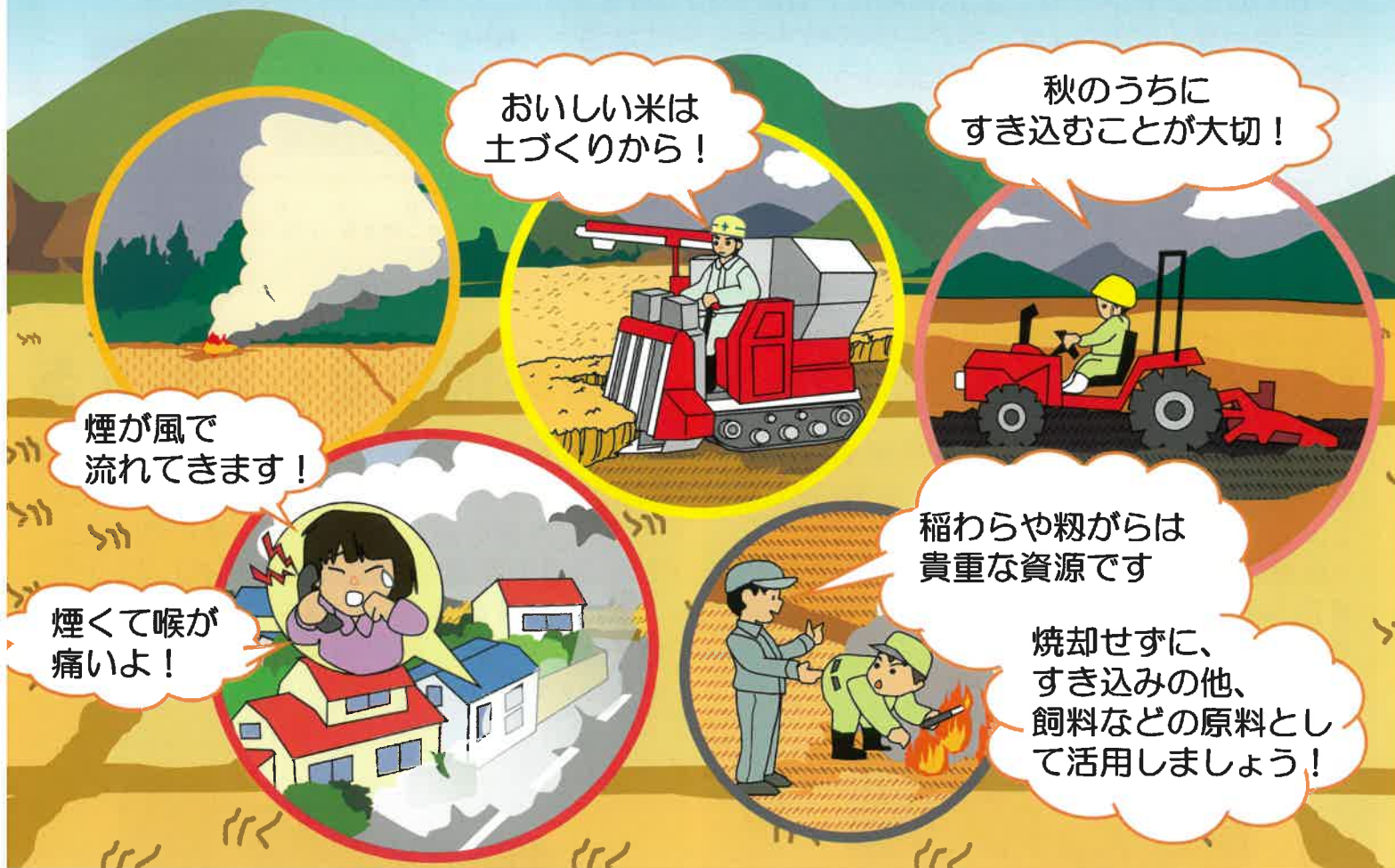


稲わら等の活用を進めましょう！

稲わらや籾がらは 貴重な有機資源です

稲わらや籾がらは焼却せずに、環境にも人にもやさしい「新潟米」づくりを実践しましょう



稲わらや籾がらは、土づくりのための秋すき込みや堆肥としての使用、更には家畜飼料にも供給されるなど、様々な場面で効果的に活用できますが、一部ではいまだに焼却が行われています。

貴重な有機資源である稲わらや籾がらは、焼却せずに活用することで、環境にも人にもやさしい「新潟米」づくりを実践しましょう。

乾燥機・籾摺機から出る粉塵の飛散防止や夜間の騒音対策を行いましょう！

【粉塵の飛散防止】

- ・排塵機の排出口を民家に向けない。
- ・集塵装置を活用するほか、集塵庫や集塵スペースを設け、効果を再確認する。

【騒音対策】

- ・静音運転機能や夜間休止モードを活用するなど、騒音の低減に努めましょう。

稲わら・籾がらを使って 元気な田んぼに

土づくりのポイント

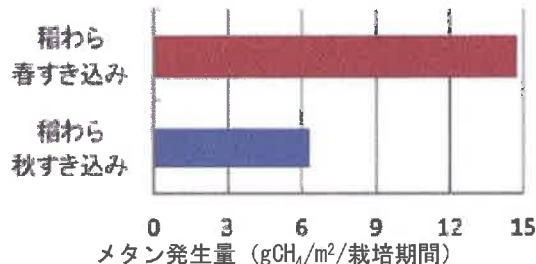
秋すき込みは10月20日頃までに

稲わら等を分解する土壌微生物は、地温が15℃以上で活動が盛んになります。稲わら等の秋すき込みは地温の高い10月20日頃までに行いましょう。

また、必要に応じて、稲わら等の分解を促進する腐熟促進剤等を活用しましょう。

稲わらの秋すき込みは、春すき込みに比べ、温室効果ガスであるメタンの発生量を抑制できます。

水田からのメタン発生量に対する
稲わら処理の影響 (H5新潟県農総研)



すき込みは5~10cm程度の浅うちで

稲わら等のすき込みは、作業能率や酸素の供給を考慮し、5~10cm程度の「浅うち」としましょう。

水が停滞しやすい水田では、稲わら等のすき込み後、排水溝をつくり、地表水を排除できるようにしましょう。



耕畜連携を進めましょう

よく乾燥した稲わらは、家畜の貴重な飼料となります。地域で畜産農家との連携を積極的に図り、良質な稲わらを収集し、牛の飼料として地域の肉牛農家や酪農家に提供しましょう。

また、畜産農家からの良質な畜ふん堆肥を田んぼに供給し、耕畜連携による土づくりを進めましょう。



土づくり資材を活用しましょう

転作等で畑地化すると、地力が低下していきます。りん酸・ケイ酸・鉄などが不足するほ場では、必要に応じて土づくり資材を施用しましょう。

籾がらも土づくりに効果があります

籾がらの分解はゆっくり進むので、短期的には生育・収量への影響は少ないですが、長期的には土壌の物理性を改善するなど、土づくり効果があります。

地域ぐるみで環境に優しい農業を推進しましょう！

新潟県では2050年カーボンゼロの実現に向け、農業分野での温室効果ガス削減の取組を進めています